

「目標をもつことが生き方を変える」

校長 桐野 和之

皆さんは野口健という方を知っているでしょうか。この方を話題に取り上げたのは、子どもの頃大変な悪だったが、目的をもったことにより、社会のために行動を起こせる人になっていった人だからです。野口さんは、日本人の父親とエジプト人の母親の間に生まれました。父親は外交官でしたので、アメリカで生まれ、サウジアラビア、日本、エジプト、イギリスと転居しました。ハーフの日本人で日本語が十分に話せず、6歳の頃までよくいじめられました。しかし、小学校2年生のときに、仲間はずれにされ、彼は足元の石を拾い、いじめの中心であったガキ大将に殴りかかりやっつけてしまい、それ以来、かつて自分をいじめた子に仕返しを続けました。これはカイロの日本人学校へ転校しても同様、カンシャクダマを人に投げつけたり、空気銃で動物を撃ったり、友人をケガさせたりとあらゆる悪さをしました。そして、この間、両親の離婚、父親との2人だけの生活となっていきました。しかし、父親は外交官として忙しい毎日を送っており、1人だけのときが多くなっていきました。このような寂しさや不満が行動に表れていたのかもしれませんが。



小学校6年生のときに、イギリスの立教英国学院小学部へ転校、全寮制でイギリスのパブリックスクール同様厳しく規則正しい生活が求められる所でした。成績不良のため仮進級で高校1年までは進みましたが、学校の1年先輩とけんかをして1カ月の停学処分を受け、日本に帰国しました。父親はそんな彼を叱ることなく旅に出ることを進め、その旅先の書店で大きな転機となる一冊の文庫本、植村直己の『青春を山にかけて』（文藝春秋、1977年）に出会いました。以前から冒険ものは好きでしたが、この本により野口さんは自分も登山をやろうと新たな目標が生まれました。山岳会に入り、登山の基礎を学んだ後、高校2年で、ヨーロッパ大陸の最高峰モンブラン、続けてアフリカ大陸のキリマンジャロに登り、世界7大陸最高峰へ登る目標をもちました。大学在学中にこの目標を達成することを掲げ、一芸入試で亜細亜大学に入学後、19歳でオーストラリア大陸のコジアスコ、南アメリカ大陸のアコンカグア、北アメリカ大陸のマッキンリーと登り、21歳で南極大陸のヴィンソン・マシフ、22歳の時、ソ連崩壊でヨーロッパ大陸最高峰となったエルブスと登りました。最後のエベレストには3回の挑戦の末、25歳の時ネパール側からの登頂に成功し、世界最年少記録を更新しました。目標を達成した後、環境問題に関心を持ち、エベレストの清掃登山、富士山の清掃登山、シェルパ基金、入山料制度、環境教育とさまざまなところで活躍する人になっていきました。



私は、彼の生き方に目立つことが多く、不安定さを感じることもありますが、目標をもった後の生き方は見習うべきものがあると思います。皆さんも小さな目標で結構です。たとえば、①朝6時に起きる、②毎日2時間は机に向かう、③予習復習は必ず行う、④毎日1つは家族と決めた家の手伝いをする、⑤食事は1日3回残さず何でも食べる、など簡単なことで結構です。それに向かって努力することが、人間を成長させる原動力となるでしょう。その小さな目標が集まって大きな目標が生まれ、その人なりの生き方が決まります。そして野口さんのように常に前向きに考え進むことのできる人生が送れるはずです。毎日を自分では解決できない問題から不満をもったり、気力を無くして惰性で過ごしたりしている人も、新たな小さな目標を見いだし、それに燃えてみませんか。必ず新しい世界が開けるはずです。その新しい世界は皆さんの人生を楽しく生きがいのあるものにすると思います。

「修学旅行を終えて」

第3学年主任 上野 美貴子

初日、西武池袋線の人身事故による電車運休でスタートした修学旅行。一時はどうなることかとヒヤヒヤしましたが、ぎりぎりまで運転再開、又、練馬からの振替輸送をうまく使い、臨機応変に対応できた班もあり、全班無事東京駅に予定時間内に集合できました。



東京駅での開校式を終え、いよいよスタート。奈良での天候は、バスで移動の度に雨に降られましたが、順調に見学することができ、ガイドさんの話にも集中して耳を傾けていました。薬師寺のお坊さんの法話は、堅苦しくなく、笑いを交えながらもポイントを押さえた快ちよいテンポでの話で、皆の印象に残りました。奈良公園の鹿は、「かわいい」「苦手」と賛否両論だったようです。大仏の大きさに驚いたり、穴くぐりをしたり、又、興福寺では阿修羅像の静かな姿に感動を覚えていました。

二日目、午前中はあいにくの雨模様でしたが、計画に沿って、地図を頼りに班で、奈良、京都を巡りました。授業で学習した名所旧跡を実際に目にし、「歴史を感じた」との声が多く聞かれました。台風の影響で、楽しみにしていた地主神社を始めとし数カ所予定変更となった所もありましたが、無事宿舎に到着。足湯に浸かりながら、旅の疲れをとっていました。夜はマグカップの絵付け。皆思い思いの図柄を描いていました。



最終日は、天候ももち直し、タクシーの運転手さんの上手な解説を聞きながら、光輝く金閣寺の美しさに感動したりして京都市内巡りを楽しみました。

宿泊行事&校外学習の集大成とも言える修学旅行は大きな問題もなく、貫井中生として立派に行動し、多くの学びと手応えのあるものとなりました。

「生徒作文」

3年生 女子生徒

今回、中学校生活最後の宿泊行事を終えていろいろなことがたくさん学べました。特に私は3つのことを学びました。

1つ目は、班行動の大変さです。私は副班長（コース係）として班員のみんなを案内しましたが、思った通り班員は自由奔放で班長と地図を見ながら歩いていると二人くらいいなくなったり、指示を聞いてくれなかったりしたこともありました。班長の補佐をし、みんなをまとめる副班長の大変さを改めて実感しました。

2つ目は、リーダーの責任感です。今回私は1日目と2日目両方の室長をやらせてもらいました。過去2年間とは違い、部屋の人の問題は室長の責任という緊張感をもって生活することができました。そのおかげか『自分は室長だからしっかりしないと』という気持ちになりました。リーダーに任せっきりの楽でいいですが、他の人に頼るより自分がリーダーになった方が得られるものは多かったと思います。また、機会があればやってみたいです。

そして3つ目は、友情の大切さです。何か困ったときに助けてくれる友人が一人いるだけで全然違います。京都で行き先の場所が分からなかったとき、班員のみんなが意見を出し合って一緒に解決してくれました。もし、あの時みんながいなくて私一人だったらと思うと少しヒヤヒヤします。今回の修学旅行はそんな友達がたくさんいたから、楽しかったのだと思います。私にとっては初めての連続で、最初は戸惑ったりしていましたが周りの方の支えもあって無事に楽しい修学旅行を終えることができました。本当に感謝しています。中学校生活最後の宿泊行事最高の結果でした。これからはこの修学旅行で学んだ責任感などを大切に、生活していこうと思います。



「雑感」

(8/16 読売新聞編集手帳の引用)

ユニークな語釈で知られる三省堂「新明解国語辞典」でこの字句を引くと少し明るい気持ちになれる。【隠居】＜仕事や生計の責任者であることをやめ、好きな事をして暮らすこと＞
◆他の辞書のように「静かに暮らす」などとは書いていない。どこか活動的で開放的なご隠居像がよぎる。

瀬戸内海島発のニュースを思い浮かべた。どこからともなく現れた78歳の男性が、行方不明の男の子を山中から見つけ出した。

◆山口県周防大島町の親戚宅に来ていた藤本理稀ちゃん2歳が三日三晩を外で過ごしながら、無事な状態で保護された。沢の石に座り込んでいたらしい。

◆その理稀ちゃんをバスタオルにくるみ山から下りてきたのは大分在住の尾鼻春夫さん。本誌の取材によれば、搜索難航の報を聞いて駆けつけたという。

65歳で魚屋を引退したあとは「世の中に恩返しをしたい」と、新潟県中越地震や東日本大震災でボランティアをしてきた。つい先日まで広島で家の泥出しを手伝い、大分に帰ったばかりだった。

◆元魚屋のご隠居は人助けが＜好きなこと＞なのだろう。はつらつとした老後を過ごされている。

このニュースを8/16のテレビ報道で見た際に、正直に言って助け出した尾鼻さんは、78歳には見えなかった。もっと若く感じた。少なくとも60歳前半。本当に元気ハツラツとしている。こんな元気で、勢いのある方だからこそ、2歳の男の子を救出できたのだと改めて思う。

「かけた情けは水に流せ、受けた恩は石に刻め」

「人の命は地球より重い」

すばらしい。このような生き方ができたらと思う。口で言うのは簡単だが、行動に移すのは難しい。でも憧れる。こんなスーパーマンのような人に。



「ハドソン川の英雄」

(2学期始業式講話より)

皆さんは「英雄」や「ヒーロー」という言葉を聞いたことがありますか。フランスの作家ロマン・ロランさんは英雄とは「自分のできることをした人だ」と言っています。

皆さんはふだんの生活のなかで自分のできることをきちんと努力してやっていますか。できることをしないで、できもしないことを望んでいる人はいませんか。

今日は2学期のスタートにあたり、自分のできることをやるということを改めて確認するためにこの「英雄」に関係する話をしたいと思います。



2001年の1月のことです。アメリカのニューヨークで、旅客機が近くの川に不時着水するという事故が起きました。その際の冷静な判断と操縦術で「ハドソン川の英雄」とたたえられたのがチェズレイ・サレンバーガー機長です。

この機長さんは飛行機が飛び立った直後に、鳥の群れに衝突し、エンジンが停止するやいなや、ただちに町並みをさけて川に向かい、本物の滑走路に降りるかのよう滑らかに川に降りました。また、川に降りた直後には、機長さんは、乗客の脱出後、残った人がいないかを確認するために、飛行機の中を二度にわたり行き来したと伝えられています。

その結果、乗客150人全員が無事に機体から脱出することができました。それゆえ、この機長さんは「ハドソン川の英雄」と呼ばれました。そして、次のことを言っています。

「私は特別なことをしたのではない。ふだん訓練を受けていることを、当たり前、できることをしただけだ」と。

ヒーローは機長さんだけではありませんでした。適切な避難誘導をした他の乗組員、落着いて行動した乗客150人全員、数分後に駆けつけた通勤用フェリーや消防署の人たち。

そして、救助を手伝ったボランティアの人たち。みんな自分のできることをした人たちあり、つまり、この人たち全員がヒーローなのです。

皆さんはサレンバーガー機長の「ふだん訓練を受けていることを、当たり前、できることをした」という言葉をどう思いますか。日頃、学習面でも自分でできることをしっかりと目標をもって取り組んでいますか。掃除当番や係の仕事などみんなのために自分のできることをしていますか。また、皆さんの大事な命を守る避難訓練もしっかり行っているのでしょうか。日々の実践がとても大事なのです。

今日、改めて自分のできること(やるべきこと)は何かを考え、目標をもって実践をする努力をしてください。当たり前のことをできる人、それが「英雄」「ヒーロー」なのです。



部活動等の報告 ※誌面の都合上、今回は9月号に掲載できなかった夏休み中の結果のみ報告します。

男子柔道部…第37回東京都体重別柔道選手権大会、第67回東京都中学校対抗柔道大会
：平成30年7月24日(火)・25日(水)

結果：男子個人戦 90kg級 1年 1回戦敗退

男子団体戦 2回戦敗退

女子柔道部…第29回東京都体重別女子柔道選手権大会、第22回東京都中学校対抗女子柔道大会
：平成30年7月24日(火)・25日(水)

結果：女子団体戦 2回戦敗退

卓球部…朝霞市ジュニアオープン卓球大会(学年別男女個人戦)：8月19日(日)

結果：1年女子個人戦 予選1位、決勝トーナメント1回戦敗退

予選2位、決勝トーナメント 第5位

1年男子個人戦 予選第1位、決勝トーナメント3回戦進出

予選第1位、決勝トーナメント2回戦進出

予選第2位、決勝トーナメント2回戦進出

第21回中高生卓球大会(中学生男女団体戦Bクラス)：8月28日(火)

結果：男子 A 予選1位、1位トーナメント1回戦敗退

B 予選2位、2位トーナメント2位

C 予選3位、3位トーナメント2位

女子 A 予選2位、2位トーナメント2位

B 予選3位、3位トーナメント1回戦敗退

野球部…練馬区民大会：8月5日(日) 結果：1回戦敗退(4-5 学芸国際中)

練馬区中体連シード権大会：8月24日(金)

結果：シード権準決勝(5-1 対八坂・谷原中)、決勝(0-8 対桜学園中)

バドミントン部…JOC大会 練馬区予選会：7月28日(土)

結果：2年 …6位入賞(Bブロック大会進出 ベスト16)

2年 …3回戦敗退

2年 …2回戦敗退

2年 …1回戦敗退

練馬区民大会バドミントン大会：8月20日(日)、23日(木)

結果：男子シングルス 2年 …ベスト16、 …3回戦敗退

…1回戦敗退

女子シングルス 2年 …ベスト8、 …3回戦敗退

…2回戦敗退、 …1回戦敗退

男子ダブルス 2年…ベスト16、

2年、1年…1回戦敗退

女子ダブルス 2年…3回戦敗退、 2年…1回戦敗退

2年、1年… 2回戦敗退

